

はっけん

九州手話サークル連絡
協議会
平成 29 年 4 月 発行

【宮崎県】

平成 28 年度県サ連研修会 日向手話サークル 緒方 嘉代

1 月 22 日（日）に宮崎市中央公民館で第 36 回宮崎県手話サークル連絡協議会研修会が開催され、137 名（会員 107 名・非会員 30 名）が参加しました。



今回は、宮崎手話サークルが中心となって企画・運営を行いました。石原利佳氏（聴覚障害者）が宮崎で生活していた縁もあり、石原茂樹氏（手話通訳士）を講師にお迎えしました。

開会行事の後、「ろう者の暮らしを見つめ直す」をテーマに、まず家族構成・難聴学級・手話を学んだ経緯・職歴などについて、石原ご夫妻に対談していただきました。茂樹氏が質問し、

利佳氏が答える会話形式で行われ、実体験を聞くことでろう者の暮らし、手話サークルのあり方など考えさせられる内容でした。また、『手話を言語として保障する権利』『手話サークル活動の 3 本柱』の確認ができ、「手話を認める＝人格を認める」の言葉が印象的でした。 午後は、「ろう者の手話を見つめ直す～手話表現の 7 つのポイント～」



をテーマに茂樹氏にご講演いただきました。DVDでろう者の手話を見ながら、手話表現の 7 つのポイントについての学習でした。説明を聞いて、再度見ることでポイントを理解することが出来ました。また、DVDの内容もろう者の歴史を知る内容で勉強になりました。

終了後、参加者からアンケートを回収した結果、60 名から回答をえることが出来ました（回収率 44%）。ほとんどの方が研修内容について良かったと回答されています。話にまとまりがあり分かりやすかった、面白かったなどの感想がありました。また、少し時間が足りなかったのもっと聞きたかったという意見も多数ありました。

【鹿児島県】

聴覚障害者情報講座

指宿手話サークルなの花 出森 俊郎

2月12日（午後） ハートピアかごしま 多目的室

主催 県視聴覚障害者情報センター

協力 鹿児島県聴覚障害者協会

講座1 「手話言語条例制定についての学習会」

講師 久松三二氏（全日本ろうあ連盟 事務局長）

講座2 「県内の聴障者向け社会資源の拡充」

講師 岩山 誠氏（全日本ろうあ連盟 福祉・労働委員会 委員）

2コマの講座がありましたが、手話言語条例に関する久松氏の講演を中心に報告します。秋田県出身の久松氏は、いろいろな課題をかかえる秋田県、特に様々な障壁に直面する



聞こえない方々に、元気が出てきてほしいと語り始められた。

ろう学校で高校まで学んだが、手話を使って先生から罰を受けたこともなければ、口話が上手だと誉められる程だった。高校では健聴者の高校にインテグレートしたが、友達から面と向かって「久松の言葉は、全く分からない！」と言われて、ショックを受けた。

ろう学校では、社会に出てから健聴者に合わせるような教育（差別に耐える、かわいがられる…）を受けた。それは、聴覚障がい者を劣った存在だと位置付けていたからだ。地方から都会に出ていった健聴者が、その地方訛りを笑われることもある。健聴者の社会にも、優劣の意識があり、さまざまな言語が存在する。手話が、音声言語に劣るという考え方をされた時代が長く続いたが、対等であるべきである。違いに目をつけて差別が生まれる「医学モデル」から、違いを認め合い共に生き共に学び合う「社会モデル」への転換が必要である。

自分自身の生き方・考え方に照らし合わせて、納得させられる話でした。

手話言語条例が、今では全国各地で制定されています。

3年前に手話言語条例を制定した、人口57万人の鳥取県では、移住してくる聴覚障がい者が多いという。情報センターが3か所に増え、通訳者は倍増、ろう者の働く場所やサポートする場所が増えていることに起因していると思います。

条例を制定して、聴覚障がい者協会と手話サークルに具体的な活動の企画を依頼。仕事をやめた聴覚障がい者が、小中学校等の手話学習に出向くなど、出番が増えて元気が出てきている。子どもたちが学んだ手話が、家族に波及しているという事例も紹介された。

手話を勉強して通訳になるまで、（講習会受講という条件のもとでは）最短5年間程度は必要だが、行政には、そのことが十分に理解してもらえない。そんなことも、理解

を求めながら、手話言語条例の制定を求めていく必要がある。また手話の学習により、健聴者の国語力を高めるという側面もある。手話の普及の副次的な効果として伝えていきたい。久松氏のユーモアにあふれた講演と流暢な読み取り通訳に、十分な内容の理解と満足感を覚えた。

講座2の講師岩山氏は、NPO法人デフ・ネットかごしまの職員で、聴覚障がいの子供・生徒を対象にした放課後等デイサービス・デフキッズ施設長として活動中。障害者差別解消法の具体化のためには、社会資源の整備が必要。社会資源とは、周りに対して役立つという視点が大事であるが、聴覚障害者に関しては整備が遅れているということも話された。以前の職業（厚生労働省ハローワーク職員）経験もベースにして、特に鹿児島において取り組むべき課題であることを力説された。

それぞれの講演の後、全体が終わった後に、質疑応答が行われた。鹿児島で遅れている災害対策の他県の様子等について、熱心なやりとりが続いた。聴覚障がい者、サークル会員をはじめとする手話関係者、各級議員も参加して意義ある学習ができた。

【佐賀県】

第57回耳の日記念の集い 手話サークルゆうゆう会：川端 大輔

3月12日（日）に第57回耳の日記念の集いに参加してきました。

場所は唐津市相知町文化交流センター。山々に囲まれ、目の前には厳木川が流れていてとても気持ちのいい場所です。この日は天気にも恵まれ、開場時間前から多くの人たちが来場されました。



第一部では本大会実行委員長の挨拶などが行われ、来賓の祝辞では唐津市長が手話で自己紹介。とても上手に表現されていて感心しました。記念講演では「アトム之道」「アトム一人芝居」と題して砂田アトム氏による講演が行われ小学部時代に父からの影響で演劇や舞台に興味を持つようになったことや、全国各地での公演の様子など笑いを交えながら演じられすごく盛り上がりました。



そして第二部、ミニ講演では「僕とバルーンとの出会い」と題し宮本泰弘氏によりバルーンに興味を持つようになったきっかけや、バルーン競技の難しさなど実際に経験した事を話して頂きました。また“日本磁器の陶祖”といわれる李参平を自らシナリオを作成しイラストも描いた平方由佳里氏による手話語り「李参平ものがたり」の上映など充実した内

容で楽しい時間が過ごせました。

次回の「耳の日記念の集い」は伊万里市で開催。

どういう内容になるのか今からとても楽しみです。

【大分県】

第 49 回「耳の日記念」大分県ろうあ者福祉大会

別府手話サークル にじ（昼） 小林 慶子

3月5日、杵築聴覚者協会が主管で国東市の菜の花、杵築市のきつき、日出町のひじの3手話サークルが協力して国東市のくにさき総合文化センター「アストくにさき」で開催されました。



会場では国東市のPRマスコットキャラクターさ吉くん（推定年齢1000歳で国東半島に昔から住んでいる妖精の男の子）の温かなお出迎えがありました。

午前の第1部は、大会式典が行われるなか、「手話言語条例」が今年の3月16日に豊後大野市で成立するという、うれしい報告もありました。大分県では津久見市について2番目になります。午後の第2部は、デフリンピックに4回も出場し、メダルも金、銀、銅と3個も獲得したバレーボール選手の岡本かおりさんによる講演でテーマは、もちろん「デフリンピックと私」でした。デフリンピックがあんなに知名度が低いなんて知りませんでした。その知名度の低さのせいで家庭や

職場の理解が得られず参加を断念する人もいるということを知って驚いていたなら、会場にも同じ経験をした、ろうあ者がいらして痛感させられました。最後に童謡の「チューリップ」を日本語対応手話と日本手話で歌って下さいました。



に比べて、日本手話は、目の前にチューリップの花が並んで咲いている様子が目に浮かぶようでした。他にも、いろいろ考えさせられる興味深い講演内容でした。杵築聴覚障害者協会、菜の花、杵築、ひじのサークルの皆様、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

次回は第50回記念で、大分市で開催予定ですが、どんな講演があるのか楽しみです。

【福岡県】

「耳の日記念特別集会に参加して」 小郡手話の会 佐藤 京子

三月五日(日)第四十六回福岡県ろうあ者耳の日記念集会に参加しました。今回は第六十五回全国ろうあ者大会支援決起集会とあって、六百六十人の参加がありました。



手話の会に入って十年を過ぎていますが、耳の日記念特別集会には初めて参加しました。

午前中は全日本ろうあ連盟創立七十周年記念事業ドキュメンタリー映画「段また段を成して」を鑑賞しました。午後からは第十二回ろうあ者大会の八ミリビデオを見ました。昭和三十七年五月三日の開催で私が生まれる半年前の事でした。全国から集まったろうあ者がバス二十三台に分かれて博多駅を出発、筥崎宮・太宰府

天満宮・島原城・小浜・長崎を観光し博多に戻る行程でした。わかる範囲で写っている人に名前が表示され、小郡の田籠勝三さんや西嶋信子さんの若い時のお姿が見れて、参加されたろうあ者の方達は口々に「懐かしい」「若い」と言っていました。

なんと言ってもバスガイドさんが皆、手話でガイドをされている映像が印象的でした。ろうあ者大会のために手話を習い、ガイドをされる皆さんに感動しました。その中の一人、大久保芳香さんと太田事務局長のトークショーが予定されていましたが大久保さんの御母さんが二月に百十歳で他界され、実際目の前でお話されるのを見ることはできませんでしたが、ビデオで対談を録画して見せていただきました。事前に一日二時間十回くらい手話で案内用語を練習されたそうです。ろうあ者大会の後も川崎さんのグループと交流され、鳥取や四国を旅行されたそうです。その後は介護福祉士として社会福祉人材センターで仕事をされました。「手話で心を伝える」とタイトルが書かれ、心の交流があったことがわかりました。



アトラクションの一つ目は七十周年記念のロゴマークの制作者である殿川さんのプロジェクションマッピングがありました。音や音楽を視覚化するパフォーマンスでテーマはオープニング・フリースタイル・和の三つです。

LAI は普段は四人ですが今日は二人で少し披露されました。本番は十五分位あるそうで楽

しみです。二つ目は手話ダンス YOU&I で「すてきな出会い」「サザエさん」「島人ぬ宝」「上を向いて歩こう」を見せていただきました。

衣装も凝ってました。北九州の応援隊の激励や昨年の全国大会 in 徳島の引継ぎの時の映像も見ました。一丸となって第六十五回大会を成功させようという気合がひしひしと

伝わってきます。あと大会まで三か月を切りました。

特別企画の世界ろう連盟理事長の記念講演も楽しみです。すごい大会になりそうです。わくわくします。若いろう者の方達も参加して歴史を知ってもらうことを希望します。

【熊本県】

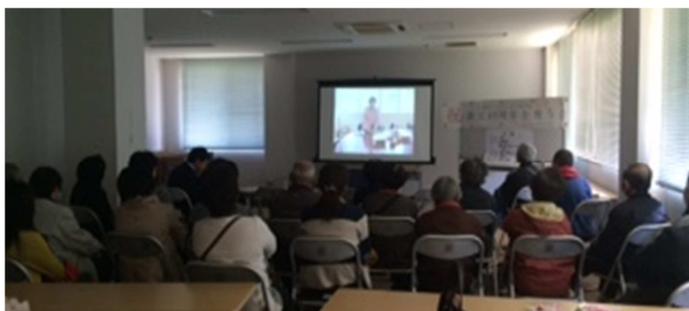
3月は「耳の日」にちなみ、熊本県内各地でイベントが開かれました。今回は、「天草わかぎ」「人吉・球磨わかぎ」の活動を報告します。

【天草わかぎ】

天草わかぎ 吉野 綾

天草わかぎは、今年度創立40周年を迎えました。天草は上天草市と天草市、苓北町の2市1町からなり、熊本県南西部に位置しています。周囲は藍く美しい海に囲まれいて自然豊かな地域です。サークルは、天草市の中心部の本渡地域に

ある「天草聴覚障害者センター」で毎週火曜夜に定例会、月曜と木曜の午前にライブラリー活動を行っています。圏域が広いので、全会員が一同に会することはなかなか難しい状況にありますが、機関紙「ゆずり葉」、メール「わかぎネット」で、会員同士の情報共有を図っています。



平成28年4月に、熊本地震が起こり、益城、御船を中心に大きな被害がありました。天草地域では、揺れはあった程度で大きな被害は受けませんでした。被害の大きかった地域に物資を供給するために、天草市内のスーパーでも棚の商品が無くなったり、輸送の車で大渋滞が起こったりし、災害のもたらす影響の大きさと、日頃の備えの大切さを改めて感じたところです。

サークルでは、支部と協力し以前から少しずつ防災・減災についての学習を重ねてきました。防災リュックを実際に作ったり、災害時の連絡方法について確認したりしていたものの、現実には起こらないだろうと、根拠の無い思い込みをしていたように感じます。そこで今回、40周年を祝う会と称し、今村彩子監督の映画「架け橋～聞こえなかった3.11」上映と、防災についてのグループワークを行うことにしました。当日はサークル会員、支部会員、その友人や知人で集まりました。市役所から、防災を担当されている方にも参加いただき、全員で映画を観賞した後、サークル、支部の各グループに分かれ、感想を含めて話し合いました。



当日は、3/11ということもあり、東日本大震災の発生時刻に黙祷をしようとしていました。地域の防災無線で黙祷を促す放送が流れたときは、ちょうど支部会員さんが発表をされていました。黙祷の放送が聞こえた人と、聞こえなかった人。「聞こえない」ことについて、市役所の方も含めて実感できた

出来事でした。

グループワークでは「地震が起きたときどうだったか」「避難・仮設ではどんなことが必要と予想されるか」「日頃からどのようなことに気をつけていきたいか」ということに関して意見を出し合い整理していきました。熊本地震の際に「情報が無かったので、自分で海の様子を見に行った」「指定された避難所に行ってみたが、あいているかどうか分からず帰ってきた」という支部会員さんからの報告がありました。「どのような方法で情報を得るか、自立するという意識も大切」「通訳制度を、聞こえる家族にも正しく理解してもらう必要がある」等、時間が足りないほどたくさんの意見が出ました。当初は、グループワークの後に「10年後の天草わかぎ・天草支部」と題してPATHミーティングを行う予定でしたが、時間が足りず次回に持ち越しになりました。

参加者からは「久しぶりに懐かしい顔に会うことができ、楽しい時間を過ごすことができました。」「50周年を迎える10年後の世界はどうなっているんでしょうね。ちょっと想像がつかませんが、だれもが生きやすい世界であってほしいものです。」等の感想がありました。

10年後、私たちを取り巻く環境はどのようになっているのでしょうか。しっかりと先を見据えて、一步一步進んでいきたいものです。

【人吉・球磨わかぎ】

人吉・球磨わかぎ 工藤 美和子

3月5日人吉東西コミセンにて、ろう協とわかぎ共催で耳の日イベントを開催しました。

内容は、てとてとてんとうむし会員の渡邊百代さんと、読み取り通訳に松岡由美子さん



に来ていただき、手話による絵本の読み聞かせとトークショーをメインに、ハンドサインの手話ダンス、絵本に登場した野菜や色を手話で表すクイズ、手話歌で進行しました。

読み聞かせについて、来場者からの感想を抜粋します。

「初めて手話での読み聞かせを見て感動しました。

表情が豊かで、表現がやさしくステキでした。引き込まれました。」「お話を見て聞いている時の子供たちの楽しそうな反応や、クイズでの子供たちの生き活きとした姿に、驚きと見ている私まで嬉しくなりました。」等

また、トークショーでは、百代さんから「熊本地震」での体験談。聞こえない立場で感じた情報獲得の難しさ、メールが繋がらず、より困難な状況になったこと。知り合いからラインでの情報をもらい助けてもらったこと。避難生活で食事の時にラップやふり



かけが、衛生面や、単調な味を変えてくれるのに大変重宝したこと、水や車のガソリンの確保など詳しくお話していただきました。来場者からの感想を抜粋します。

「耳が聞こえないことが、災害時にどれだけ不便な状況になるのかがよく分かりました。」「日頃から近所付

き合いの大切さを改めて感じました。」



っぱいのイベントでした。

人吉・球磨わかぎも、今年結成40周年記念の年でした。今回のイベントを通して、企画から準備、会場の後片付けまで、ろう協とわかぎの会員一人一人が自分の持ち味、特技を活かし率先して動いていたこと、歌やダンスの練習、イベントに使用する道具を創意工夫しながら準備していくのと同時に、皆の心が一致団結していくのを感じ、とても充実と会員への感謝でい

【長崎】

七団体防災・減災フォーラム ～防災運動会～

南島原手話サークル 草野 徳

テーマ『長崎県の聴覚障害者における「防災・減災ネットワーク」をめざして』

3月19日（日）13：00～15：30 長崎県立ろう学校体育館で開催されました。

長崎県ろうあ協会

長崎県難聴者中途失聴者協会

長崎盲ろう者友の会あかり

全国手話通訳問題研究会長崎支部

長崎県手話サークル連絡協議会

長崎県手話通訳士協会

長崎県要約筆記連絡協議会

の七団体代表者から、まず団体の紹介が有りました。参加者は125名です。



オリエンテーションでは、注意事項やコミュニケーションを取りながら楽しみながら学ぼうと説明があり、聴覚障害者及び七団体関係者を8チームに分けて3つの競技を行いました。もちろん顔合わせをすることは大切な行事の一つですから、簡単な自己紹介をして始まりました。

【競技1】簡易トイレ作りは、最初説明を受けて制作したが、出来上がったトイレはそれぞれのチームで若干違いがありましたが、80kg位の男性が座っても大丈夫だったので上々の出来でした。ポイントは段ボールの強化、内部に柱を立てることです。

【競技2】大音量競争は、各グループ6名で声や靴・笛・本などある物を使って音を出し、スマホを使い計測しました。測定値は、ほぼ同じで108デシベルでした。実際に被災すると方法は限られてくるので、笛やサイレン音を発生させる多機能ライトなど

を準備するのが、ベストではないかと思いました。

【競技3】非常食準備競争は、非常食を協力会社・団体から沢山の品物をご提供頂き、各グループ6名が担当して、その非常食をグループの人数分だけ持って来て揃えるまでを競うと言うものでした。開始まで少し時間が有りグループでやり方・担当を決めてい



たのですが、実際始まると競争の意識が強くなり、慌てて余分に持って来て、後で返品したこともありました。この為きちんとリーダーを置いて、数の確認作業・分配の方法（数が割り切れる物は良いが、数が揃わない物はどうするのか？）・分配作業・確認など統制する必要があったと、ものすごく感じ反省しました。

実際に大災害が発生したら、避難所が開設されたら、私達は何が出来るのでしょうか。経験したことは出来ると思います。顔見知りの方がいたら助け合えると思います。だからこそ今後も、七団体防災・減災フォーラムで勉強・経験を深め、自分の能力を高め、共助の力を強くしてゆきたいと思いました。

〈編集後記〉

熊本大震災から一年が過ぎました。テレビでは特集番組が組まれ、少しずつ復興は進んではいるようですが、まだまだ長い時間が必要です。これからも継続的な支援を続けると共に、貴重な災害の経験と知識を活かせるように学ぶことはサークル活動にも必要な事と思います。

そして広報誌「はっけん」の情報が、少しでも皆様の役に参考になったら、ありがたいと思っています。原稿を提供いただきました皆様、手配頂きました通信員の皆様、ご協力ありがとうございました。早くから原稿お寄せ下さいましたのに、遅くなり申し訳ありませんでした。

九州手話サークル連絡協議会
(事務局) 〒861-0143
熊本県熊本市北区植木町大和 34-2
森 保夫
発行責任者：中元 教博
広報誌担当：草野 徳 (長崎県)

発行：平成 29 年 4 月 15 日